

2011年10月8日(土)
国分寺労政会館

どうすれば可能か？ ごみ半減！

がんばる自治体の取り組みを聞く

ごみ処理量は着実に減少しているものの、そのテンポは遅く、多くの自治体が目指しているごみゼロ社会には程遠いのが現状です。自治体には、ごみゼロ社会への道筋をつけるための思い切った計画と取り組みが求められます。

そこで、最近、ごみの半減や40%削減を目標とするごみ処理基本計画を相次いで策定した、葉山町と町田市の担当者にその取り組みを紹介していただき、市民、自治体の職員、議員のみなさんに参考にしてもらおうというセミナーを企画しました。町田市に関しては、町田市民から市民自身の取り組みを紹介していただきました。報告者の熱意溢れる説明に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

ごみゼロを見据えた 葉山町のごみ半減計画

神奈川県葉山町 生活環境部 環境課係長
雨宮健治さん



ゼロ・ウェイストへの挑戦

葉山町は、2008年1月の町長選挙で「脱焼却・脱埋立」を選挙公約に掲げた森英二現町長が当選し、公約を実現するため、5月末をもって、横須賀市、三浦市と協議を進めてきたごみ処理広域化計画から離脱しました。

同年6月『葉山町ゼロ・ウェイストへの挑戦』を発表し、徹底的なごみの資源化・減量化で2028年度までに焼却・埋立ごみをゼロに近づけるという目標を掲げました。ただし、いきなりごみゼロを目指すのではなく、まず2013年度までにごみを半減させることを目標とし、5年ごとに半減目標の設定を繰り返して、段階的にごみを減らしていきます。

この目標に向け、2008年11月に『葉山町ゼロ・ウェイスト計画施策骨子(素案)』を作成し、具体策の骨子を提示しました。

ごみ処理基本計画

2011年3月に策定した『葉山町ごみ処理基本計画』では、第1期目標として、2006年度を基準年とし、2013年度までに焼却ごみと埋立ごみそれぞれを半減させ、第2期目標として、2018年度までにさらに半減させることを目指しています。

第1期目標に向けた施策としては、生ごみ自家処理、新しい分別収集方式、指定袋制の導入などを推進します。

ごみ排出状況とごみ減量の課題

● ごみステーションでのルール・マナー違反

ごみステーションでは、きちんと分別していない、曜日が違う、カゴの外に置く、通りすがりにポイ捨てするなど、ルール・マナー違反が多い。

● ごみと資源が混合

現在 14 分別しているが、ごみと資源を同じ曜日に収集しているため、両者が混じっています。

● ごみは減らせる

ごみの組成を調査したところ、可燃ごみでは資源化可能な生ごみ、紙類、古布、草木類等が 70～80%、埋立ごみでも資源化可能なびん類等が約 50% を占めており、ごみを減らせる余地が大きいことがわかりました。

● ごみ減量の課題

ごみを減らすためには、可燃ごみの約 60% を占める生ごみの自家処理を推進するとともに、資源化対象品目を増やし、分別をわかりやすくすることが必要。

生ごみ自家処理の推進

非電動式の各種処理容器の普及を進めており、これらの機種については、補助金申請手続きを省き、役場窓口で一律千円で割引販売しています（電動式・手動式生ごみ処理機へも購入金額の 2/3 を補助しています）。地上式コンポスター、埋め込み式コンポスター、EMバケツ、キエーロ、ベランダ de キエーロといった機種の中から、ライフスタイルに合った機種を選べます。また、説明会、生ごみ交流サロン、役場前やスーパー前などでの展示会・実演会を実施しています。

2009 年度は約 360 世帯が購入しました。毎年同程度購入されています。購入世帯に対しては、電話や訪問によるフォローアップやサポートを行っており、継続使用率は 7～8 割。

モデル地区の一色台地区（約 100 世帯）では、2009 年夏から約 8 割の世帯が生ごみ処理に取り組み、燃やすごみを約 4 割減量しました。

新しい分別収集方式

ルール違反の多い燃やすごみ、容器包装プラスチック、プラスチックごみについては、責任あるごみ出しを促すため、戸別収集を導入。資源物については、分別をわかりやすくするため、草木類、古布等を追加して 21 品目とし、埋立ごみとともに



資源物は裸で折りたたみ式の分別カゴへ

に、資源ステーションでカゴやコンテナにより分別収集。（写真参照）

まず 2 つのモデル地区で先行実施。一色台地区では、2010 年 4 月から始めて、生ごみ減量分を含め、燃やすごみを約 7 割減量（1 人 1 日当たり約 240 g に）。牛ヶ谷戸地区（約 360 世帯）では、2010 年 9 月から始め、燃やすごみを半減（1 人 1 日当たり約 330 g に）。紙、草木類、古布、不燃物等の減少によります。

現在あるごみステーションを資源ステーションに転換していく予定ですが、それと同時に、多すぎるステーションの数を整理し、収集を効率化することも考えています。

また、^{もっぱらぶつ}専ら物（有価の古紙、かん、びん、古布の 4 品目）は、全面的に集団回収に切り替えることを計画しています。

指定袋製の導入

燃やすごみの収集では、半減目標値（329 g/日/人）に基づき、週 2 回の収集で、1 回につき 1 人世帯 5 ㇿ、2～3 人世帯 10 ㇿ、4 人以上の世帯 15 ㇿの「ごみ半減袋」を 1 枚無料で配布し、不足分は有料で購入してもらう指定袋製の導入を計画しています。

1 枚目から有料とする「単純有料制」ではなく、こうした「一定枚数無料制」の導入を考えているのは、減量目標を見える化するツールとして使いたいからです。

100 世帯で 2009 年 9～10 月の 2 ヶ月間行った「ごみ半減袋」のモニター実験では、約 9 割が毎回それに収めることができ、約 7 割が分別意識も高まったと言っています。

ごみ40%削減に向けた 町田市の取り組み

東京都町田市 環境資源部 施設計画担当部長
田後真人さん



ごみゼロ市民会議がスタート

これまでの経過

● 家庭ごみ有料化の実施

2005年10月から家庭ごみ有料化を実施し、ごみ減量を進めてきました。

● ごみゼロ市民会議の開催

容器包装プラスチックの中間処理施設の建設をめぐる、市の説明不足から、圧縮梱包によって有害な化学物質が発生するのではないかという市民の懸念を払拭できず、2005年12月に建設計画が凍結されました。

こうした状況を背景に、市が市民に呼びかけ、2006年10月に「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を基本方針とする「町田市ごみゼロ市民会議」が発足しました。翌2007年11月に『町田市ごみゼロ市民会議報告～もつたない精神で「ごみゼロまちだ」をつくろう～』がまとめられ、家庭生ごみ全量資源化の推進、プラスチックごみの減量・資源化への取り組みなどが提言されました。

● 基本計画の策定

市はそれを受け、2009年6月に町田市の一般廃棄物処理の基本となる『町田市一般廃棄物資源化基本計画』の策定について廃棄物減量等推進審議会に諮問しました。

計画の策定に当たっては、審議会を全22回、市内5カ所での地域懇談会を各2回開催。その他に、容器包装プラスチックを圧縮した際の化学物質の発生状況を確認するため、パッカー車による収集実験と市民の立ち会いの下での圧縮実験を行いました。また、家庭での生ごみ自家処理の普及可能性と、農家での生ごみ肥料の受け入れ可能性についてのアンケート調査を実施しました。

2011年3月に審議会から答申を受け、4月に策定しました。

町田市一般廃棄物資源化基本計画

基本理念

町田市43万市民は、地域や地球の環境を守るために、「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を原則として、徹底したごみ減量・資源化を図りつつ、持続可能で環境負荷の少ない都市を目指します。

基本方針

1. 家庭から出る生ごみの100%の資源化を推進します。
2. プラスチックごみの減量・資源化を推進します。
3. 市民、事業者、行政の協働を進めます。
4. 次世代型のリサイクル施設を整備し、ごみ処理の円滑な運営を進めます。
5. ごみの発生抑制と排出抑制の取り組みを進めます。

全体目標

2020年度までにごみとして処理する量を40%削減します。

2009年度(基準年)における総ごみ量約131,000ト(集団回収を含む)のうち、ごみとして処理している量は約99,000ト。ごみ減量・資源化を推進し、この量を2020年度までに約60,000トへ約39,000ト削減。

個別目標

● 発生・排出抑制

- ・人口増加(2009年度比2%増)に伴って増加が見込まれるごみ量の発生抑制で約3,000ト以上削減。
- ・生ごみの発生抑制で約5,000ト削減。
※生ごみの水切りの徹底による。
- ・事業系ごみの発生抑制で約3,000ト削減。

※大・中規模事業者への指導強化、古紙の共同処理の

推進、食品リサイクルの推進、小規模事業者の資源回収の促進による。

- ・1人1日当たりの総ごみ量は852g→782g(集団回収を含む)。

● 資源化率

- ・27%→54%

● 生ごみの資源化

- ・生ごみの発生量は約22,000トンの見込み。
- ・生ごみ処理機による処理で約3,000トン資源化。
- ・バイオガス化による処理で約19,000トン資源化。

● プラスチックごみの資源化

- ・約10,000トンの発生が見込まれ、汚れたものを除き約6,700トン資源化。

● 温室効果ガスの排出量

- ・約34,000トン→約17,000トン以下(50%以上削減)。

基本方針を実現するための施策

1. 家庭から出る生ごみの

100%の資源化を推進します。

● 資源化方法として、家庭での処理を優先し、肥料などとして利用します。

- ・家庭用生ごみ処理機器の普及
- ・集合住宅や地域への大型生ごみ処理機の導入
- ・自家処理モデル地域での実施

※家庭内処理の普及を進めるため、生ごみを家庭内で処理・活用する際の問題点等を把握するのが目的。

- ・市民農園等の利用者への普及

● 家庭で利用しきれない生ごみ処理物を集めて肥料化します。

- ・生ごみ処理物の肥料化
※地域リサイクル広場等で回収し、肥料化施設で肥料化。
- ・市内農家での生ごみ肥料の利用普及

● 肥料としての資源化に適さない生ごみを集めてバイオガス化します。

- ・バイオガス化技術の調査・研究
※可燃ごみとして集め、その中から生ごみを機械選別してバイオガス化。そのために、バイオガス化の技術動向や導入事例、残さ等の有効利用についての調査・研究を進め、町田市に適合した方法を検討。
- ・バイオガス化の実施
※バイオガス化施設を設置・運営。

2. プラスチックごみの減量・資源化を推進します。

● プラスチックごみの発生抑制を図ります。

- ・過剰包装でない商品の選択
- ・マイバッグの普及

● 容器包装プラスチックごみは、安全性に配慮しながら容器包装リサイクル法に則って資源化します。

- ・容器包装プラスチックごみの分別収集
- ・容器包装プラスチックごみの圧縮梱包

● その他のプラスチックごみ(製品等)も資源化ルートを拡充します。

- ・容器包装以外のプラスチックごみの分別収集
- ・「リサイクル広場まちだ」での回収

3. 市民、事業者、行政の協働を進めます。

● 計画を推進するために、市民・事業者・行政の責任を明確にし、協働の場づくりをします。

● リサイクル広場の増設等ごみ減量の取り組みを協働で進めます。

● 環境学習や普及啓発活動を協働で進めます。

4. 次世代型のリサイクル施設を整備し、ごみ処理の円滑な運営を進めます。

● 生ごみ・プラスチックごみ等を安全に処理し、温暖化防止のためエネルギー回収を進めます。

● ビン・カンや金属、ガラス等を分別し、資源化するための総合資源化施設を整備します。

● 近隣市との協力を進めるとともに、広域連携を図ります。

5. ごみの発生抑制と

排出抑制の取り組みを進めます。

● 事業系ごみの減量・資源化を推進します。

● 拡大生産者責任の考え方から製造・流通事業者にごみの発生抑制を働きかけます。

● 家庭から出る生ごみやプラスチック以外のごみの減量・資源化を推進します。

● 事業者の自主的なごみ減量・資源化の取り組みを促す制度を設

42万都市まちだ ゼロ・ウェイストに挑戦

NPO法人 町田発・ゼロ・ウェイストの会
理事長 広瀬立成さん

「町田市ごみゼロ市民会議」の活動

● 組織と活動状況

ごみゼロ市民会議(2006年10月～2007年11月)では、134名の市民委員が11の分科会と2つのチームに分かれ(下図参照)、延べ280数回に及ぶ会合を重ねるとともに、実証実験も行い、家庭生ごみ全量資源化の推進、プラスチックごみの減量・資源化への取り組みなど6項目の提言をまとめました。

● 実証実験

戸建て住宅での生ごみ処理

12地区で510台の生ごみ処理機器を無償貸与し、2カ月間実験。93%が継続使用を希望。

長野県川上村でのレタス栽培

町田市の家庭から出た生ごみを堆肥化し、それを使って4,000個のレタスを収穫。

「リサイクル広場まちだ」の開設

市民に資源化可能な物を持ち込んでもらう「リサイクル広場まちだ」をオープン。

「町田発・ゼロ・ウェイストの会」の活動

● 会の目的と活動状況

「ゼロ・ウェイスト」とは、徹底したごみの削減と資源化を進め、ごみゼロ社会を実現しようという考え方。この会は、その考え方にに基づき、町田市での「ゼロ・ウェイスト宣言」の制定を目指して、2006年1月に発足。ゼロ・ウェイストの普及啓発に努める一方、地域でごみの削減と資源化のためのさまざまな活動を行っています。

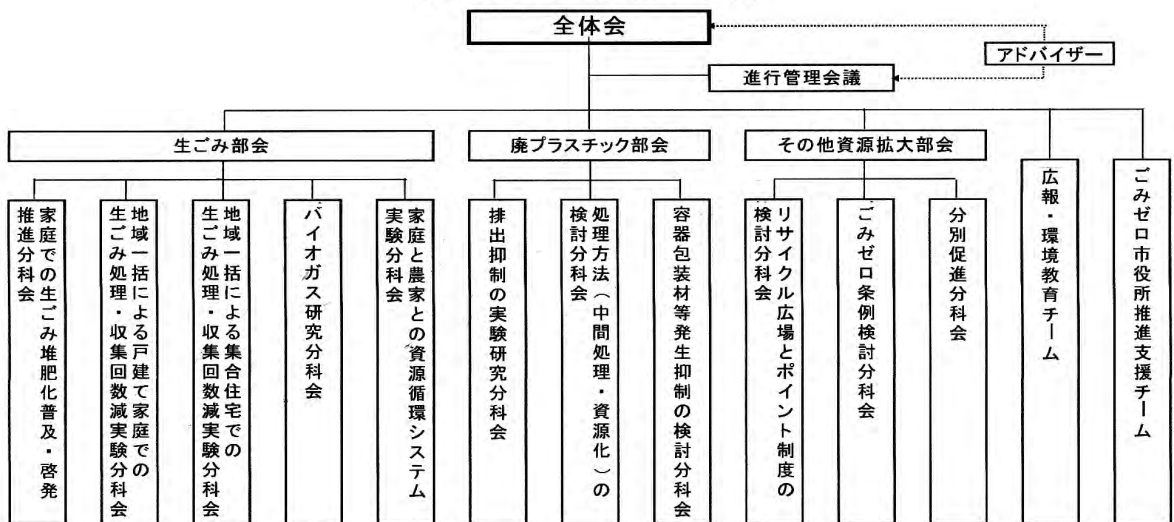
● 最近の活動例

「首都圏における生ごみ全量堆肥化による地域内・循環型社会の形成」の事業

2009年度の「環境省循環型社会地域支援事業」に採択。生ごみ資源化による食物資源の循環を目指し、2009年9月に「東谷戸たんぼ再生プロジェクト」(写真)を立ち上げました。学生や地元の人たちの参加を得て、北部丘陵の東谷戸にある800㎡の休耕田を開墾し、生ごみ堆肥を投入して稲を栽培しています。



【ごみゼロ市民会議の組織】



まとめ:ごみ・環境ビジョン21 理事 小野寺 勲三